

林野労組九州

発行所
熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合第22回定期
九州地方本部
(電) 096-354-1150

発行者 松本慎剛
責任者 10日
発行日 1部20円
定価 組合員の購読料は
組合費の中に含む

緑を育て、守る、 林野労組

当面の行動

9月4日 共済推進会議
10月中旬 人事院交渉
10月16日 全国代表者会議
(東京都)
10月17日 全国共済理事会
(東京都)

7月26日、東京都の連合会館において、全国林野関連労働組合第22回定期全国大会が開催され、九州地本からは、北部ブロックを代表して福岡分会の井川代議員を含め、代議員5名が参加しました。

現場で働く者にしっかり届くものでなければならぬ」とし、林野庁予算をはじめ、現場で必要となる予算の確保を求めていることを示しました。そのためにも、職場の声を国政へ届ける国会対策の重要性を改めて訴えました。

林業労働者の処遇改善など、依然として多くの課題が残されていることから、「計画をつくるだけでなく、具体的な施策と予算につなげることが重要だ」とし、引き続き国会対策や林野庁交渉を通じ、具体的な改善を求めていくとしました。

賃金・労働条件を巡っては、2026春闘で3年連続となる高水準の賃上げが実現する一方、物価上昇によって生活改善を実感できない状況が続いていると指摘。先般の本部オルグでも賃金・手当、育児・介護など、切実な課題が寄せられていると

冒頭、中村中央本部執行委員長より、全国から参集した代議員・傍聴者の日頃の活動に敬意と感謝を述べたうえで、国内外の情勢や森林・林業を取り巻く課題、国有林野事業の推進と組織態勢の強化などに触れ、「今後の取組について、全体で意思統一を図りたい」と挨拶がありました。

はじめに、国際情勢についてアメリカによるイランへの軍事攻撃をきっかけに緊張が拡大し、エネルギー供給や物流の混乱が国民生活だけでなく、林業・木材産業にも影響を及ぼしている

政治情勢については、物価高が国民生活を圧迫する中、国会では衆議院の定数削減や副都構想などの議論が進められたことに触れ、国民生活の実態を置き去りにした政治とならないよう、引き続き注視していく必要があると強調しました。

森林・林業政策では、新たな「森林・林業基本計画」が閣議決定されたことを受け、国産材の需要創出や多様で健全な森林づくりなど、その方向性を着実に現場で実行していく必要があるとしました。

一方、森林整備予算の不足、賃金・労働条件を巡っては、2026春闘で3年連続となる高水準の賃上げが実現する一方、物価上昇によって生活改善を実感できない状況が続いていると指摘。先般の本部オルグでも賃金・手当、育児・介護など、切実な課題が寄せられていると

はじめに、国際情勢についてアメリカによるイランへの軍事攻撃をきっかけに緊張が拡大し、エネルギー供給や物流の混乱が国民生活だけでなく、林業・木材産業にも影響を及ぼしている

政治情勢については、物価高が国民生活を圧迫する中、国会では衆議院の定数削減や副都構想などの議論が進められたことに触れ、国民生活の実態を置き去りにした政治とならないよう、引き続き注視していく必要があると強調しました。

森林・林業政策では、新たな「森林・林業基本計画」が閣議決定されたことを受け、国産材の需要創出や多様で健全な森林づくりなど、その方向性を着実に現場で実行していく必要があるとしました。

一方、森林整備予算の不足、賃金・労働条件を巡っては、2026春闘で3年連続となる高水準の賃上げが実現する一方、物価上昇によって生活改善を実感できない状況が続いていると指摘。先般の本部オルグでも賃金・手当、育児・介護など、切実な課題が寄せられていると

賃金・労働条件を巡っては、2026春闘で3年連続となる高水準の賃上げが実現する一方、物価上昇によって生活改善を実感できない状況が続いていると指摘。先般の本部オルグでも賃金・手当、育児・介護など、切実な課題が寄せられていると

九州代議員発言要旨

林野庁独自の昇任・昇格要件

3級・4級のポストの空席が多く、最近では5級の空席も増えている。

今年度期首の職員数は増加したものの、依然として空席は解消されていない。職員の年齢構成のひずみや昇格基準によって、職員数が増えてもポストに配置

現場管理を支える新たな委託業務

現場管理について、森林事務所では事業実行や地域ニーズへの対応など、業務が多岐にわたっており、森林官一人での現場管理に限界が生じていることから、新たな委託制度を。

林道予算の確保

林道修繕が十分に実施できない

が重要だ」とし、職場の課題をみんなで共有するなど、実践と情報共有を繰り返しながら、粘り強く改善を求め続けることが労働組合の原点であり、その積み重ねこそが組織の力になると強調。

最後に、国有林野事業の発展と組合員の生活・労働条件の向上に向けて、全地本・全分会が一体となって取組を進めていくと呼びかけ、挨拶を締めくくりました。

その後、執行部から提案があった中で、各地本から多岐にわたる多くの意見が出され、最後は団結ガンバローで本大会を了しました。

九州地本では現地での試行を求めている。各地本の意見を踏まえ、導入に向けた取組を。

組織態勢の確立
組織率の低下に歯止めをかけるため、これまで様々な取組を粘り強く展開してきたものの、依然として厳しい状況が続いている。しかしながら、このまま諦めることはできない。

現場で働く仲間を最優先に考え、その声を組織の力へとつなげてきた本組織を、必ず次の世代へ引き継いでいく必要がある。組織の未来を見据えた強い覚悟が感じられる取組を。

及び事業量が九州の中で最も大きい。署となっているが、次長ポストがなく、管理者は2名体制で、円滑な業務運営や、良好な労使関係の維持に労使双方が苦

新しい状況。都域支署に次長級ポストが設置される取組をお願いする。

緊急連絡体制の強化
衛星通信サービス「スターリンクダイレクト」を活用したスマートフォンへの導入について、

総括治山・支署次長級ポストの新設

沖縄署は大規模な台風が常襲地帯であるにもかかわらず、治山総括が未設置となっている。

沖縄署に総括治山技術官を設置するよう交渉の強化を求めたい。また、都城支署は、管内面積

緊急連絡体制の強化

衛星通信サービス「スターリンクダイレクト」を活用したスマートフォンへの導入について、

現場で働く仲間を最優先に考え、その声を組織の力へとつなげてきた本組織を、必ず次の世代へ引き継いでいく必要がある。組織の未来を見据えた強い覚悟が感じられる取組を。

林道修繕が十分に実施できない

林道修繕が十分に実施できない

「匠の一言」
屋久島の暑い夏をさらに熱く、みんなで盛り上がりました。(手前から2艘目です)

会の記事は「委員長から執行部から提案があり…」そんな感じで



「40周年」
「委員会から提案があり…」そんな感じで

「大会で起きたことを伝える」を意識してきた。でも今回、中村本部委員長の挨拶を改めて思い返してみると、その言葉の奥に「届けたいこと」が溢れている▼政治情勢、森林・林業を取り巻く課題。話題は違っても、「職場の声をみんなで共有し、諦めずに積み重ねていく。その力が組織を動かす」という一本の思いが流れています▼であれば機関紙も、「何があったか」だけを書くのは少しもったいない。なぜこの話をしたのか。私たちに何を伝えようとしたのか。そして、それが自分たちの仕事と、どう繋がっているのか。そこまで接続させてこそ、意味ある機関紙かなと

「伝える」から「届ける」へ。「届いて」から「考える」へ。そんな機関紙に変えてみる。

(松本)

「伝える」から「届ける」へ。「届いて」から「考える」へ。そんな機関紙に変えてみる。

(松本)

「伝える」から「届ける」へ。「届いて」から「考える」へ。そんな機関紙に変えてみる。

(松本)

みんなの取組が

賃上げに繋がった

～2026人事院勧告～

人事院は8月7日、国家公務員の月例給を3・51%引き上げるとともに、一時金を0・05月引き上げる勧告を行いました。初任給は一律9,500円の引き上げ。中堅層以上についても全ての級で3%以上の改定となり、昨年を上回る水準が確保されました。また、再任用職員についても平均8・5%の大幅な改定となっています。

林野労組はこれまで、物価上昇を踏まえ「真に生活改善につながる賃上げ」と、若年層・中堅層・高齢層のバランスの取れた賃金体系の確立を求めてきました。今回、中堅・高齢層を含めた俸給表の改定や一時金の

引き上げ、再任用職員の処遇改善が図られたことは、私たちの要求が一定程度反映されたものと受け止めています。そして、この成果を支えてきたのが、各分会で積み重ねてきた取組です。人勤期には、賃金要求書の提出をはじめ、「団体署名・職場決議」、全国統一行動など、それぞれの職場から声を積み上げてきました。一つ一つを見れば小さな取組に感じられるかもしれませんが、今回の勧告を引き上げてくれた。

日々の業務を抱える中で、分会活動を続けることは決して簡単ではありません。それでも、

職場で話し合うこと、その積み重ねには確かな意味がありました。この賃上げのコツを忘れず、次の取組に繋げなければいけません。

一方、今回の勧告で取組が終わるわけではありません。政府に対して早期の閣議決定と給与法改正を求めるとともに、私たちの職場には、生活に直結する課題がまだ残されています。

これからも職場の声を出発点に、一つ一つの課題を前へ進める。今回の成果に自信を持ち、分会・地本・中央が力を合わせ、次の前進につなげていきたいと思います。俺たちは強い。

若き力にご支援を!!

九州地本青年女性委員会では、毎年、資金活動を行っており、今回は第5弾となる「森人」シリーズのポロシャツを販売し、全体集会の開催費や旅費支援等を行うこととしています。



局分会伊藤さんが作成してくれました

課題解消に向け、全国の仲間と

～第22回全国青年女性委員長会議～



全国の仲間とつながり、思いをひとつに

8月1日から2日の2日間、林野会館（東京都）にて「第22回全国青年女性委員長会議」が開催され全国の各地本から24名が集結しました。九州地本からは東青年女性委員長（局）、傍聴として川畑常任委員（大隅）が参加しました。

冒頭、高橋中央青年女性委員長（東北地本）より「各地本で様々な工夫をしながら運動を展開した。」

討論では、「一般職員が3Gポストの業務を担っており負担が大きいことや要員が不足していること」「賃金のベースアップを上回る物価上昇により生活が厳しさを増していること」「宿舎の老朽化」など、職場や生活に関する多くの課題が共有

開していただき感謝している。

組合員同士が情報共有を行える集まる場の確保について、引き続き協力をお願いしたい」と挨拶がありました。

続いて中央常任部より、「2025年度活動報告」「2026年度活動方針（案）」について提案が行われた後、各地本から活動報告があり、さまざまな質疑・討論が交わされました。

提案のあった各議案については、今後も中央・地本・分会が一体となり、活動の発展・強化に向けて取り組んでいくことを確認し、全会一致で承認されました。最後には、高橋青年女性委員長（音頭）のもと力強い団結ガンバローで閉会しました。

3分でわかる〇〇のコーナー

タヌキたちよ、山で待て

～人事院勧告が給与に反映されるまで～

「おつ、今年もペー1万円ですか？」

すると、タヌキがもう一匹。『家族旅行に行けるんじゃないですか？』

さらにもう一匹。『いや、海外旅行？』

気が付けばタヌキと共にえへです。

しかし、ここでふと我に返ります。『まだ給与に反映されていない。反映されるまでには、国会で給与法の改正が必要。次の国会は……秋の臨時国会。まだ先か。』

私はタヌキたちを抱っこしながら、すでに使い道を考えていました。まさに『捕らぬタヌキの皮算用』ですよ。

このことわざの由来は有名です。私の脳内に一匹のタヌキが現れました。

「おつ、今年もペー1万円ですか？」

すると、タヌキがもう一匹。『家族旅行に行けるんじゃないですか？』

さらにもう一匹。『いや、海外旅行？』

気が付けばタヌキと共にえへです。

しかし、ここでふと我に返ります。『まだ給与に反映されていない。反映されるまでには、国会で給与法の改正が必要。次の国会は……秋の臨時国会。まだ先か。』

私はタヌキたちを抱っこしながら、すでに使い道を考えていました。まさに『捕らぬタヌキの皮算用』ですよ。

このことわざの由来は有名です。私の脳内に一匹のタヌキが現れました。

「おつ、今年もペー1万円ですか？」

すると、タヌキがもう一匹。『家族旅行に行けるんじゃないですか？』

さらにもう一匹。『いや、海外旅行？』

気が付けばタヌキと共にえへです。

しかし、ここでふと我に返ります。『まだ給与に反映されていない。反映されるまでには、国会で給与法の改正が必要。次の国会は……秋の臨時国会。まだ先か。』

私はタヌキたちを抱っこしながら、すでに使い道を考えていました。まさに『捕らぬタヌキの皮算用』ですよ。

このことわざの由来は有名です。私の脳内に一匹のタヌキが現れました。

「おつ、今年もペー1万円ですか？」

すると、タヌキがもう一匹。『家族旅行に行けるんじゃないですか？』

さらにもう一匹。『いや、海外旅行？』

気が付けばタヌキと共にえへです。

しかし、ここでふと我に返ります。『まだ給与に反映されていない。反映されるまでには、国会で給与法の改正が必要。次の国会は……秋の臨時国会。まだ先か。』

私はタヌキたちを抱っこしながら、すでに使い道を考えていました。まさに『捕らぬタヌキの皮算用』ですよ。

あの人 どの人

「いずれAIを超える男」

刈上 翔吾さん（福岡分会）



Chief Information Officer huchigami

今回福岡分会より紹介するのは、令和8年4月より新しく福岡分会のメンバーとなった入庁19年目菅北出身の刈上翔吾さんです。

久しぶりの署内勤務と土木業務にも拘わらず、確かな手腕で部下を引っ張り、あらゆる課題を颯爽と解決しています。

一方で、プライベートでは新しく娘さんが生まれたばかり。業務中はいつも凛々しい顔をしていて、

最近のハマっていることと言えば生成AIとの会話らしく、仕事で分からないことがあるとまず初めに相談するのが日課になっているそうです。

24時間文句も言わず付き合ってくれるので、とても助かっている半面、答えが立派すぎて、「本当に理解したのはAIで、自分は

読んだだけじゃないか」と思うこともあるそうです。

今後の目標としては、定年まであと2年となった最初の上司と再び働けるこの貴重な機会に、これまでの経験や知識をしっかりと吸収することで、AIから新しい知識を、上司から長年培った経験を学びながら、いつかは「AIより先に答えを出せる職員」を目指したいと志高く話していました。

来年は節目の採用20年目を迎えます。若々しく全開でスマートに仕事を捌き福岡分会をこれからも引っ張っていただきたいと思っています！

（福岡分会・橋本通信員）